

02 公害の発生



戦後、全国で大気汚染公害が問題に…。工業都市四日市市でも、くさい魚が獲れたり、悪臭、ばいじん、騒音などの苦情が市に寄せられました。また亜硫酸ガスを主な原因とするぜん息が深刻な問題になりました。当時の写真や肉声などから公害の実態を感じることができます。

ぜん息で入院している患者さんの声を記録した音声があります。ぜん息がいかにかしくてつらい病気であるかわかります。



亜硫酸ガス(硫黄酸化物)とは

石油などを燃やしたときに発生するもので、水に溶けやすく、鼻や喉、気管支を刺激し、ぜん息などの呼吸器系疾患の原因になると考えられています。

03 まちづくりの変遷



1889年に誕生した四日市町が現在の姿になるまでを、四日市市の模型に映像を投影し解説しています。

04 環境改善の取り組み



市民・企業・行政が一体となって取り組んだ環境改善によって、昭和51年度に二酸化硫黄濃度が、国の環境基準を市内全域でクリアしました。その歩みをそれぞれの側面から展示しています。

行政は硫黄酸化物の総量規制を設けるなどの条例をつくらせたり、企業は抜本的な公害対策に努めたりしました。



四日市市の大気汚染物質観測データをリアルタイムで見ることができます。

市内の二酸化硫黄濃度は環境基準を達成し、現在も良好な状態で推移しています。



常設展示

四日市公害と環境未来館

〈解説員〉

さいとう まさひろ
齊藤 正英さん

平成23年「解説員養成講座」を修了。現在、解説員として活躍しています。

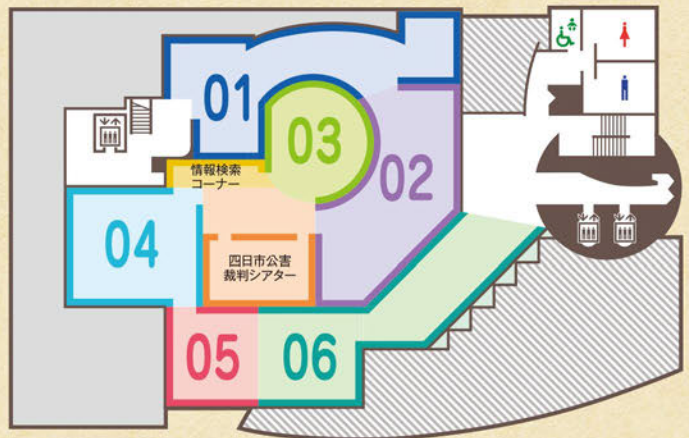


案内します!

01 産業の発展とくらしの変化



明治以降の四日市港の発展とともに、戦争を経てコンビナートができるまでの様子を、当時の写真や映像、人々のくらしの再現によって知ることができます。



四日市公害裁判シアター

1967年、磯津の公害認定患者9人がコンビナート企業を相手に裁判を起こします。当時の資料や証言を交えた映像から、四日市公害裁判とその影響を解説しています。



1972年 四日市公害裁判で原告側が全面勝訴

裁判によって工場からの排煙とぜん息の因果関係が明らかになり、これを機に全国で公害防止対策が進みました。

患者、市民、医療、司法、企業、行政などのさまざまな分野の関係者、約60名の方々の証言映像を聞くことができます。

